



中耳炎について

みみはなのどさいとうクリニック

齊藤 史明 先生 (耳鼻咽喉科)



みなさんは中耳炎はどのような病気とってますか？耳が痛くなる病気、子供の頃になりやすい病気などというのが一般的でしょうか？

確かに、これは急性中耳炎という病気で、鼓膜の内側の中耳腔に炎症が起きる病気です。普通は鼓膜という膜がありますので、外から細菌等が入って炎症を起こすことはありません。なので水が耳に入って中

耳炎になるということはほとんどありません。ではどこから炎症が起こるのでしょうか？正解は鼻からです。鼻と耳は耳管という管でつながっています。鼻をすすったり、鼻を強くかんだりすると、鼻からの細菌が中耳腔に入りそこで炎症をおこします。なので中耳炎の治療の時は鼻の治療も同時に行います。基本的には抗生剤、鎮痛剤等を用いますが、炎症が軽度であれば鎮痛剤のみで治ることもあります。

中耳炎は他にもいくつかあります。

聞こえが悪くなる滲出性中耳炎、急性中耳炎が遷延し、鼓膜に穴が開いたままになっている慢性中耳炎、耳垢が真珠のように溜まってしまふ真珠種性中耳炎などがあります。滲出性中耳炎は、中耳腔で炎症が起きたあと、鼓膜の内側に滲出液が溜まってしまふ病気です。お子さんがなることが多く、3歳児健診などで鼓膜の動きが悪いと言われたときはこの病気のことが多いです。鼓膜は振動で音を伝えますので、水が溜まっていると、音がこもって聞こえるイメージです。溜まった滲出液が無くなれば改善します。滲出液は鼻のほうに流れて行きますので、鼻の治療を行い改善をはかります。どうしても改善しない場合は鼓膜を切開し、換気チューブの留置を行うことがあります。当院では病院で行ってもらっています。また大人の方が片側だけ滲出性中耳炎をおこした時は注意が必要です。稀ではありますが、鼻の奥に腫瘍が隠れているときがあります。

長年、耳だれに困っている方は慢性中耳炎の可能性があります。鼓膜に穴が開いていると耳から細菌等が入りますので、外から水が入っても簡単に中耳炎になってしまいます。鼓膜に穴が開いているので、聞こえが悪い人が多いです。手術を行うと改善する可能性がありますのでご相談ください。



真珠種性中耳炎は手術が必要な疾患です。聞こえが悪いことが多く、鼓膜所見が特徴的なことがあります。診察中に偶然見つかることがあります。

中耳炎は様々ありますので、耳の調子が悪い時はご相談ください。

中耳炎の治療薬について

中耳炎の治療では、鎮痛剤や抗生剤の他に点耳薬が使われることもあります。

点耳薬は、耳の中に垂らして使用するタイプの薬剤です。見ためが目薬と似ているので、普段目薬も使用している方は間違えないよう注意が必要です。

点耳薬は、使用前に手で数分握っていただくなど、体温程度に温めていただく必要があります。冷たい薬液だと刺激になり、眩暈の原因になってしまうことがあるからです。冷たい薬液によって眩暈を起こしてしまった場合でも、楽な姿勢で休んでいればすぐに落ち着いてくるので大丈夫です。

鎮痛剤は、市販薬にも同じ成分が含まれていることがあるので、同じ成分のものを一緒に飲まないよう注意が必要です。また、お腹に負担がかかることもあるので、できる

だけ空腹時を避けて服用しましょう。空腹時を避けるのが難しい場合は、多めの水で服用することでお腹への負担を軽減することができると、食事摂るのが難しい場合は試してみてください。



抗生剤は、風邪を引いた時や怪我をした時など様々な場面で使用されるので、他の治療目的で抗生剤を服用していないか注意が必要です。抗生剤服用によって、下痢をして

しまったりお腹が痛くなったりしてしまう方がまれにいらっしゃいます。これは、腸

内細菌のバランスが崩れることによるものです。お腹が弱い方や軟便になりやすい方は事前に相談し、整腸剤と一緒に飲むなど対策をするようにしましょう。また、症状が良くなつたように見えても、まだ体内に菌が残っていることがあり、その菌が抗生剤への耐性をつけてしまうことで薬が効かなくなってしまうことがあります。そういったことがないように、抗生剤は最後まできちんと服用するようにしてください。

上花沢薬局 (米沢市)
薬剤師 伊藤文香



上花沢薬局

山形県米沢市東三丁目4-38
TEL.0238-27-0265
FAX.0238-27-0266
薬・健康に関するご相談承ります。